

審議会等の会議の記録

会議の名称	令和6年度 伊勢崎市いじめ問題対策連絡協議会
開催日時	令和6年8月19日(月) 10:00~11:00
開催場所	伊勢崎市役所 東館5階 第4会議室
出席者氏名	松村会長 里見副会長 佐藤委員 宮崎委員 小林委員 入澤委員 栗原委員 武井委員 織田委員 菅谷委員 細井委員 事務局(小保方、吉田、長竹、下山)
傍聴人数	0人
会議の議題	「子供たちの健全育成のために、今、私たちがすべきこと、していること～いじめから子供たちを守るために～」
会議資料の内容	伊勢崎市いじめ防止基本方針、いじめ問題対策連絡協議会等条例、伊勢崎市いじめ問題対策連絡協議会規則、伊勢崎市いじめ防止組織図他
会議における議事の経過及び発言の要旨	<p>《第Ⅰ部》</p> <ol style="list-style-type: none"> 委嘱状交付 挨拶 自己紹介 会議の趣旨説明 役員選出 <p>《第Ⅱ部》</p> <ol style="list-style-type: none"> 伊勢崎市におけるいじめの現状と対策の説明 協議 <p>(各委員より)</p> <ul style="list-style-type: none"> どの学校も安心・安全に通えるよう、いじめ0を目指しつつ一方で、いじめ見逃し0を目指している。 いじめ件数が3年間で微増しているが、これも積極的に見つけているためと考えられる。 小学校の発達段階から、いじめ件数は低学年で多く、高学年に向けて減少していく傾向にある。 大人が子供を守る体制、例えば人員配置を進めるとともに、子供たちが自分たちで学級をよりよくしたいという気持ちを育てる。その両面を大切にしたい。 スマートフォンの所持率の増加、低年齢化が見られる。小さいころから正しい使い方、SNSの扱い方について教えていく必要が

ある。

- 中学校は、新たな人間関係ができ、教科担任制など新たな経験ができる。そうした中、発達支援的生徒指導において、所属する集団の中で認められることが大切である。出会いの機会に、丁寧で滑らかな人間関係作りを進める必要がある。
- 遅刻してきた時に、頭ごなしに叱責するのではなく、「どうしたの」と聞いてあげることで、「事情を聞いてくれる」という信頼関係ができる。
- 何かがあった時に、子供がSOSを誰かに発信できるようにしていく必要がある。紙ベースのアンケートでは、消した跡を見逃さないなど教員はアンテナを高くし、日常生活の中でも見取る目を磨くことが大切である。
- 問題が起こった時だけでなく、一定期間が経過したのち、その後を見守っていくことが大切である。
- 小学校と中学校の対応を知ることができてよかった。また、子供から訴えがあった時、先生がどのように対応するのか、決められたものがあるのか知りたいと思った。
- 今年度は、夏休み子供向け講座を拡充し、学校教育だけでなく社会教育として公民館や図書館などを会場に139講座を企画した。中学生がボランティアとして絵画教室や科学教室で小さい子供たちに教えた。
- 地域や地域の子供たちとつながりの大切さや自己肯定感の醸成に寄与した。
- 様々な相談に乗っている中、加害側の家庭、保護者に問題意識があるかは重要である。
- 児童虐待の相談件数は、ここ3年ほど横ばい状態となっている。
- 以前は近隣住民からの通報が多かったが、今は減り、警察からの情報提供が多くなった。何か気になることがあれば遠慮なく、児童相談所や市の子供家庭支援センターへ連絡して欲しい。
- 法務局は人権相談、救済活動、啓発活動を行っている。人権教室や、DVDなどぜひ活用して欲しい。
- 市内の小中学校にSOSミニレターを配付し、出されたものについて内容によっては該当学校に情報提供している。中には、親も知っているが、どうしてよいか分からず、手紙を出してくるケースもある。法務局のホームページにQ&Aもあるので活用していただきたい。
- 昨年、今年と暴走族が活発化している。暴行や脱退トラブルが多く、中学生の加入者が増える傾向にある。
- スマホを使って女子が画像を送ってしまう事案が多くなっている。そういった生徒はフィルタリングをしておらず、保護者の意識を高めること、情報モラル教育が重要である。
- 月に1回ほど、学校へ民生児童委員が訪問しており、そうした活動を生かして保護者の方々と面識を作っていきたい。
- 人生相談の相手になれればと考えている。
- 人権啓発に関わることを主にやっている。
- 毎年、3年生を対象に、一部中学1年生を対象に、人権教育を実施している。

